## 案山子（かかし）　「久延毘古（くえびこ）」田んぼの神様

収穫の秋です。稲刈りが終わっている田んぼが多く見られます。新米で作ったおにぎり、おいしいですね。小学生だと３個くらいペロリという人もいるかもしれません。

ところで、最近は見られないようになりましたが、実りの秋に田んぼに立っている人形のようなものと言えば、「案山子（かかし）」です。これは、田んぼのお米を食べに来るスズメなどの動物を、人がいると見せかけて追い払うものなのです。私は田舎で育ちましたので、幼い頃からよく見かけました。しかし、スズメたちは平気で田んぼに入って来て怖がる様子もなく、あまり役に立っているようには思えませんでした。

さて、「案山子」の正体は‥？ある本で「案山子」を調べて驚きました。何と神様だったのです。名前は「くえびこ」、知恵者の神様であったということです。「もしかすると、昔の人は田んぼの守り神として案山子を作ったのかもしれない!?」と、そんなことを思いました。人工衛星も天気予報もなかった時代、大雨のため稲が倒れてお米が採れなくなったり、大水のため村中が水浸しになったりしてしまうことが、今よりも頻繁にあったのでしょう。案山子を祀ることによって、恐ろしい大雨や台風から守ってもらおう、自然災害に備える知恵をいただこうとした‥、そう考えても不自然ではないような気がしました。

私たちの住んでいる日本は、阪神・淡路大震災や東日本大震災などの災害を経験しました。また、最近はゲリラ豪雨などすさまじい被害の映像を目にしました。もし、昔の人が田んぼに案山子を立てて自然災害から村を守ろうとしたのなら、私たちも日頃から心の中に案山子を立てて、身の回りの自然災害から自分自身を守る心掛けを持つことも大切なのではないでしょうか。

案山子は、民間習俗の中では田の神の依代（山の神の権現とも言われる）であり、霊を祓う効用が期待されていた。というのも、鳥獣害には悪い霊が関係していると考えられていたためである。人形としての案山子は、神の依り代として呪術的な需要から形成されていったものではないかとも推察できる。蓑や笠を着けていることは、神や異人などの他界からの来訪者であることを示している。

古事記においては、「久延毘古（くえびこ）」という名の神 ＝ 案山子であるという。彼は知恵者であり、歩く力を持っていなかったとも言われる。　フリー百科事典「ウィキペディア」

❤ Happy Birthday　10／15‥安藤 響 君